

伊勢志摩の植物と動物

伊勢志摩国立公園は、内陸部と海岸部における生物多様性の見本市です。この地域の気候や四季折々の自然、地元の人々による環境に配慮した取り組みは、多種多様な動植物を育む生息圏をつくりだしました。

黒潮はフィリピンから東シナ海を経由して日本に流れてくる暖流です。この潮流は、比較的温暖で、冬も霜や雪が少ない伊勢志摩地域の穏やかな気候に大きく影響しています。この気候下で、海岸沿いの山々や島々を覆う森林は豊かに繁ります。これらの森林は、カシなどの広葉樹、スギやヒノキなどの針葉樹、そして、季節に応じて花を咲かせる植物で構成されています。木々の下にはイノシシ、シカ、ニホンザルに加え、ウサギ、キツネ、アナグマといった小型哺乳類など、多様な野生生物が生息しています。

これらの森林に覆われた山々から流れる地下水や河川水は、伊勢志摩にある数多くの入江や湾に養分を運びます。志摩半島沿岸の水深は 20～30m と比較的浅く、日光が海底まで届きます。この環境は、海洋生物と人間両方の食糧源となる藻場の生育に理想的です。海底の岩場には、この地域の特産品であるアワビやイセエビなどが生息しています。潮間帯や潮溜りは、多くの小魚類、貝類、イソギンチャクなどの水生生物で賑わいます。より深いところでは、季節に応じてマグロやサバ、タイなどの魚が回遊します。

遠い昔この場所に暮らしていた人々は、この地域の豊かさをよく知っており、「神への供え物の地」という意味の「御食国（みけつくに）」と呼んでいました。